



▲被災地の子供たちへおもちゃを直接届ける、ふんばろう東日本支援プロジェクト代表の西條剛央さん

プロジェクトの一部をご紹介

ふんばろうサポータークラブ

被災地に寄り添うために、毎月一定額を支援者の方の口座から自動で引き落として支援を続けていくプロジェクト。毎月1000円から寄付を始めることができ、「支援」と重々しく考えるのはではなく、「ランチ2回分の寄付」这样一个形ならなんだかできそうですね。申し込み方法はホームページや問い合わせでご確認ください。

ハンドメイドプロジェクト

アクリルタワシやレッグウォーマー、ミトンなど、ちょっとしたかわいいものを手にすると、気持ちが和むことは誰でも経験したことがあるはず。被災地へキレイでカワイイ手づくりの小物を送ることで気持ちに潤いを持つてほしいという、支援者からの気持ちを込め小物を作るプロジェクトです。

総合問い合わせ 0570-06-4439

「現在も支援物資を待っている被災者家庭は800件にも及んでいま

（1）
主婦ができる支援プロジェクト
ランチ2回分の寄付から
スタートできる支援
<http://fumbaro.org/>

ふんばろう東日本支援
プロジェクト
<http://fumbaro.org/>

（1）
主婦ができる支援プロジェクト
ランチ2回分の寄付から
スタートできる支援
<http://fumbaro.org/>

被災地へ行かなくてもできること

数多くの支援団体から
自分にあったものを探すのは大変。
あらかじめ、インターネットを活用し、
活動に賛同できる団体を見つけるのも
支援の第一歩です。

す。支援の継続が大切のことです」とふんばろう東日本支援プロジェクトの渡辺一雄さんは話します。

行政が支援できる枠をはるかに超えた未曾有の大災害であったことを考慮し、ふんばろう東日本支援プロジェクトでは、必要な物資を必要とされているところへ確実に届ける支援をはじめ、援にとどまるのではなく、長期間継続的に日本全体で支えなければいけないこと。これからでも遅くありません。まずは、自宅でできることから始めてみませんか。

被災地の仕事を作る自立支援なども行っています。これは、一時的な支援にとどまるのではなく、長期間継続的に日本全体で支えなければいけないこと。これからでも遅くありません。まずは、自宅でできることから始めてみませんか。

被災地へ応援し続けることが、何より大切なこと

（2）
主婦ができる支援プロジェクト
マッチングシステムで、被災者の想いに寄り添った支援を提供
<http://b.volunteer-platform.org/>

ボランティア プラットフォーム

<http://b.volunteer-platform.org/>

（2）
主婦ができる支援プロジェクト
マッチングシステムで、被災者の想いに寄り添った支援を提供
<http://b.volunteer-platform.org/>

引き続き「地震被害の救援金」を受け付けています

産経新聞社と産経新聞厚生文化事業団、産経デジタルは、東日本大震災により被災した方々を救済するため、救援金の募集を引き続き受け付けております。現金書留、ゆうちょ銀行振替口座のほか、インターネットでも手続きができます。※衣類などの物資は受け付けておりません。

【送金方法】いずれも「東日本大震災」と明記。

- ◆現金書留〒100-8077 東京都千代田区大手町1の7の2、産経新聞編集局編集管理部「東日本大震災救援」係へ。
- ◆ゆうちょ銀行振替口座「社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団」(00960-9-25723)。「通信・ご依頼人」の欄に住所と氏名を記入してください。振替口座は手数料のご負担をお願いします。
- ◆インターネットは、「MSN産経ニュース」「イザ!」「SANSPO.COM」「zakzak」「SankeiBiz」のトップページをご覗ください。